

地理的な見方・考え方と地理的技能を育成する地域学習についての一考察 —地理的分野「地域調査の手法」の指導計画の構想—

久喜市立栗橋西中学校 青柳 慎一

1. はじめに

2017年告示の中学校学習指導要領（以下、新学習指導要領と表記する）では、育成を目指す資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することなどを基本方針として改定がなされた。社会科においては、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成、主権者として持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養などが改定の柱となった。本研究では、新学習指導要領において新設された、社会科地理的分野内容C(1)「地域調査の手法」の学習を通して育成すべき社会的な見方・考え方や地理的技能について検討し、「地域調査の手法」の指導計画の構想を示すことを目的とする。

筆者の勤務校は、関東平野の低地に位置する。1947年のカスリーン台風では利根川の決壊による大洪水に見舞われ、2011年の東日本大震災では、学区域で地盤の液状化が起きている。2019年の台風19号では、学校に避難所が開設された。これらのことを踏まえ、本研究では、防災を主題として設定して指導計画を設計することとした。

中学校社会科の地域学習は、学習者の直接体験地域としての「身近な地域」を学習対象とし、観察や野外調査を含む作業的・体験的な学習の充実が求められてきた。しかし、国立教育政策研究所教育課程研究センターが実施した「平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査」の結果をみると、「身近な地域の調査」の学習について、観察や野外調査の実施率が低いことがうかがわれる。恐らく、教室内で地形図や統計資料を活用しての作業的な学習に止まることが実態としてあると思われる。新学習指導要領の全面実施を目前に控え、「地域調査の手法」で観察や野外調査を確実に取り組むとともに、読図や作図といった作業的な学習を組み込んだ課題解決的な学習の過程を通して、地理的な見方・考え方や地

理的技能を育成していく授業の構築が喫緊の課題になると考える。

2. 「地域調査の手法」について

地域学習について、2008年告示の中学校学習指導要領では、地理的分野内容(2)エ「身近な地域の調査」として位置付けられていた。新学習指導要領では、「地域調査の手法」と、内容C(4)「地域の在り方」の二つの中項目に分けて学習することとなった。「地域調査の手法」では、観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方を理解することや、地形図や主題図の読図、地図の作成などの地理的技能を身に付けること、地域調査における調査の手法や調査結果の考察、表現を通して思考力や判断力、表現力等を育てていくことがねらいとなる。「地域の在り方」では、地域の実態や課題解決のための取組を理解することや、地域の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する学習活動を通して、思考力や判断力、表現力等を育てていくことがねらいとなる。

3. 小、中、高等学校を通じた資質・能力の育成

新学習指導要領の改訂では、小、中、高等学校を通じた資質・能力の育成が重視されている。そこで、学習指導要領および解説の記述を基に、「地域調査の手法」の学習内容から見た小学校社会科、高等学校地理歴史科地理総合との接続について整理しておく。

小学校社会科では、第3学年と第4学年で地域学習に取り組む。第3学年「身近な地域や市区町村の地理的環境」の学習では、観察や調査、地図からの読み取りなどを通して、身近な地域や市の様子を捉え、白地図などにまとめる技能を培うことをねらいとしている。地図を活用する技能では、位置や地形、交通などの特色を読み取る学習活動が位置付けられる。第4学年「自然災害から人々を守る活動」では、

地域の自然災害や防災を取り上げ学習する。この学習では、聞き取り調査や地図、年表からの読み取りなどを通して、災害から人々を守る活動を捉えていく。地図を活用する技能では、古い地図との比較や地図と写真を結び付けて地域に起こった災害を捉える学習活動などが考えられる。これらの学習では、社会的事象の特色や相互の関連などを考えたり、社会に見られる課題の解決に向けての社会へのかかわり方を選択・判断したりするために、身近にある具体的事象を教材として、「何があるのか」「どのような特色があるのか」「どうすればよいのか」といった問いを設定して課題を追究する展開が考えられる。中学校では、小学校での学習内容や学習展開を踏まえ「地域調査の手法」を構想する必要がある。

中学校社会科地理的分野の「地域調査の手法」では、社会的事象の地理的な見方・考え方として、「場所」などに着目して調査対象地域の地域的特色を追究していく。観察や野外調査、文献調査に取り組むことを踏まえ、大縮尺の地図、写真や画像、統計資料、文書資料などの活用について、情報収集、情報の読み取り、情報のまとめに関する技能を具体的な学習活動を想定して整理しておき、調査対象地域の地域的特色を追究する上で適切な方法を選択できる

ようにしておくことが肝要と考える。

図1は、中学校における地域学習について、地理的分野内容C「日本の様々な地域」の内容構成から枠組を整理したものである。「地域調査の手法」では、「場所」などに着目して、その場所の自然環境や歴史的背景、土地利用の変化など人々の営みなどに関連付けて、その場所で見られる自然災害について追究していく学習展開が考えられる。「日本の地域的特色と地域区分」「日本の諸地域」の学習を経て、再び生徒の身近な地域を学習対象とする「地域の在り方」が位置付けられている。「地域の在り方」では、「空間的相互依存作用」や「地域」などの見方・考え方を働かせて、その地域で見られる地理的な課題について、多面的・多角的に追究していく。具体には、「空間的相互依存作用」の視点で「河川の治水について、他地域とどのような結び付きや影響があるのか」、「地域」の視点で「他地域と比較して、その地域はどのような特色があるのか」、さらに、持続可能な社会の構築といった視点も踏まえ「どのように災害に備えるべきなのか」「防災を踏まえてどのような地域にすべきか」といった問いの設定が考えられる。

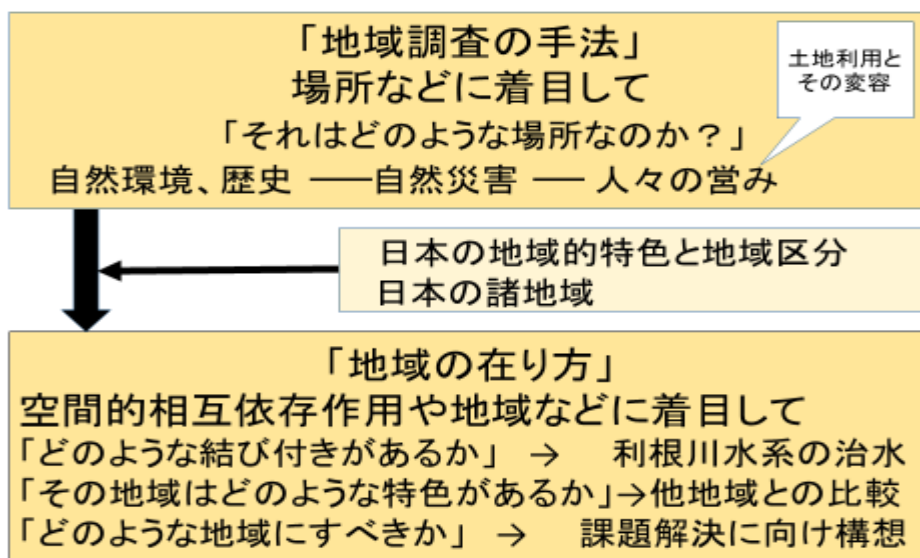


図1 中学校における地域学習の枠組

高等学校地理歴史科地理総合の学習では、中学校社会科での既習事項を十分踏まえた学習活動の工夫が求められる。図2は、中学校地理的分野の学習と地理総合との関連を、学習指導要領の記述を基に整理したものである。地域調査を取扱う内容に着目すると、「地域調査の手法」の学習は、地理総合の内

容C「持続可能な地域づくりと私たち」へと接続する。社会的事象の地理的な見方・考え方について言うと、中学校の地誌的な学習で取り上げた「空間的相互依存作用」や「地域」といった地理的な見方・考え方が、地理総合の「生活圏の調査と地域の展望」につながっていく。なお、社会的事象の地理的な見方・

考え方については、中学校から高等学校へと校種が上がるにつれて主題の質やそれを生かした問いの質が高まるよう主題や問いの設定を工夫していくこと

が望まれる。また、主題として設定する内容に着目して、小、中、高等学校のカリキュラムを捉えておくことも大切であるとする。

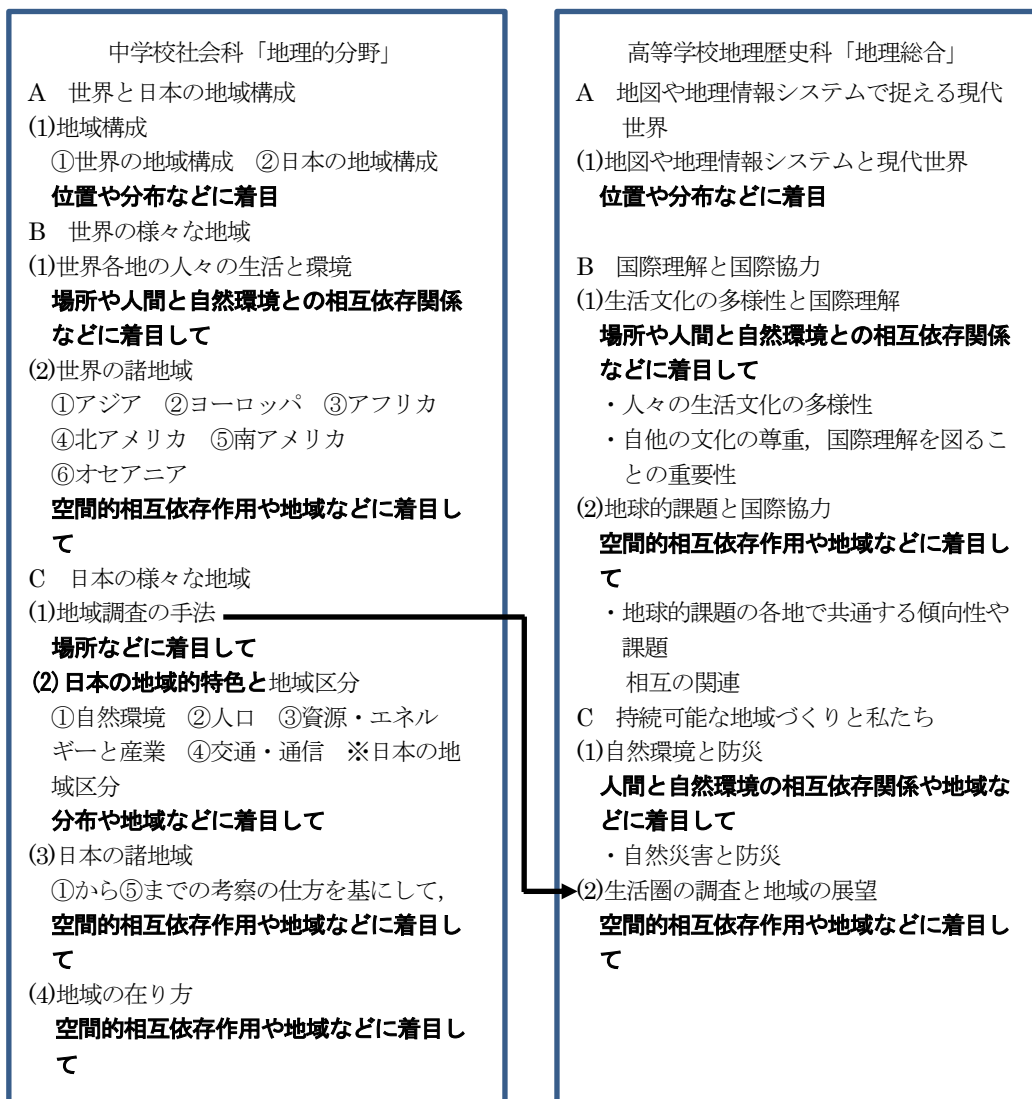


図2 中学校社会科地理的分野と高等学校地理歴史科「地理総合」との関連

注：社会事象の地理的見方・考え方を太字ゴシック体で示す。

4. 「地域調査の手法」の構想

「地域調査の手法」について、学習指導要領は、「場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して」と学習活動の骨格を示している。この記述に着目して、「地域調査の手法」の授業設計を次の(1)から(3)のことを検討して進めた。

(1)働かせる見方・考え方から問いを設定する

この点を踏まえ、学習対象地域は、どのような特色がある場所であるか、その場所はどうしてそのような特色があるのかといった「場所」の視点から、次の問いを設定して課題を追究する学習展開を構想した。

- ①この場所（学校周辺）では、どのような災害が起きたのか。
- ②どうしてこの場所で、そのような災害が起きたのか。
- ③どこが危険な場所になっているのか。

さらに、「地域調査の手法」の学習をまとめる中で「この場所では、どのように災害に備えればよいのか」といった問いを立て、「地域の在り方」の学習へとつなげていく。

- (2)「地域調査の手法」で取り上げる調査方法の検討
「地域調査の手法」では、観察や野外調査、文献調査を実際に取り組み、調査の視点や方法を身に付

けさせることがねらいとなる。地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの作業的な学習活動を取り入れ、地理的技能の育成を図ることが学習指導要領に示されている。指導計画を構想するに当たり、これらの記述を踏まえて、「地域調査の手法」の学習で取り上げるべき地理的技能につい

て整理する。その際、調査テーマである「防災」の視点で、調査対象地域との関りで教材として利用可能な資料や事柄を検討し、地理的技能と組み合わせ具体的な学習活動を想定して整理していく。表1は、地理的技能について筆者の授業実践を基に整理を試みたものである。

表1 「地域調査の手法」で取り上げる地理的技能（試案）

	情報を収集する技能	情報を読み取る技能	情報をまとめる技能
地図の活用	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究に適した縮尺や範囲の地図を収集・選択する。 課題追究に有用な主題図を収集・選択する。 電子地図を利用して、地図を集めたり、位置や分布、距離、面積などの情報を集めたりする。(地理院地図の利用等) 	<ul style="list-style-type: none"> 大縮尺の地図から土地利用や分布などの情報を読み取る。 地図と航空写真を関連付けて、景観の特色を読み取る。 年代の異なる地図を比較し、変化を読み取る。 分布図や統計地図などの主題図から情報を読み取る。 ハザードマップなどの地図の作成の意図を踏まえて、地域の事象や課題などを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 白地図に地理的な情報を言葉、記号、イラストを書き込んだり、写真、図、グラフ等を貼りつけたりして、追究した地域的特色をまとめる。 統計資料を基に、階級区分図や分布図をつくる。 地域間の結び付きを流線図であらわす。 GISを利用して選択した情報を地図にまとめる。
画像の活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域の図書館や資料館を利用して、課題追究に有用な画像を集める。 インターネットを利用して、課題に関連するキーワードを入力して検索し、課題追究に有用な画像を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画から景観の特徴を読み取り地理的事象を見出す。 写真と文章を結び付けて読み取る。 異なる年代の写真や動画を比較して変化を読み取る。 空中写真と地図を結び付けて読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画に、地域的特色を端的に示す見出しや短文をつける。 写真や動画を地図と結び付けながら情報を整理する。 写真や動画を使ってプレゼンテーションを行う。
統計の活用	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関の発行する白書や報告書、統計書などから情報を集める。 インターネットを利用して、課題に関連するキーワードを入力して検索し、課題追究に有用な統計資料を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位等に気を付け適切にグラフや統計表を読み取り、全体の中で占める割合の大きさや順位、傾向性や共通性、地域的特色などを読み取る。 異なる年代のグラフや統計数値を比較して変化や推移を読み取る。 グラフや表と文章を結び付けて読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 統計数値を地図や表に表したりグラフを作成したりする。 表現する目的に適したグラフを選んで作成する。(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフなど) グラフや表を使ってプレゼンテーションを行う。
文書の活用	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館や地域の図書館を利用して、課題追究に有用な文献資料を集める。 新聞の縮刷版やインターネットを利用して、課題解決に有用な情報を収集・選択する。 課題追究に有用なパンフレットやリーフレットから地理的な情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土史、年表などから地域の変化を読み取る。 郷土辞典や書籍、新聞記事、パンフレットやリーフレットなどの文献資料から地理的な情報を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章資料から読み取った情報をキーワードや短文で表に整理したり、図に整理したりする。 地図や画像、統計資料などと結び付けて文章にまとめる。
観察・野外調査	<ul style="list-style-type: none"> 調査項目を考えインタビューや質問紙調査を行う。 野外観察をしてスケッチや写真撮影する。 野外観察をして気付いたことを地図に書き込む。 数える、位置や分布を調べるなどの野外調査を行い、情報を集める。 博物館や資料館などを見学して情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図と景観の対応関係を観察する。 インタビューやアンケートなどの調査結果から地域の特色や課題についての情報を読み取る。 博物館、資料館で収集した資料、観察して集めた情報から、地域の変化や自然環境、人々の営みの様子などを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察や野外調査の結果を大縮尺の地図にまとめる。(観察のルートマップ、分布図や土地利用図の作成など) 野外調査の結果をグラフや表にまとめる。 観察や野外調査の結果を、文章にまとめる。

注：筆者の授業実践で取り上げた地理的技能を整理し作成した。

(3)課題を追究する筋道を立てる

課題解決的な学習では、概ね「問題をつかむ」「調べる」「考察する」「まとめ発表する」といった学習

過程が考えられる。この学習過程を踏まえ、(1)で検討した問いと(2)で検討した調査方法を組み合わせ、課題を追究する筋道を立てていく。本研究で考えた、

観察や調査を位置付けた学習過程の構想を図3に示す。

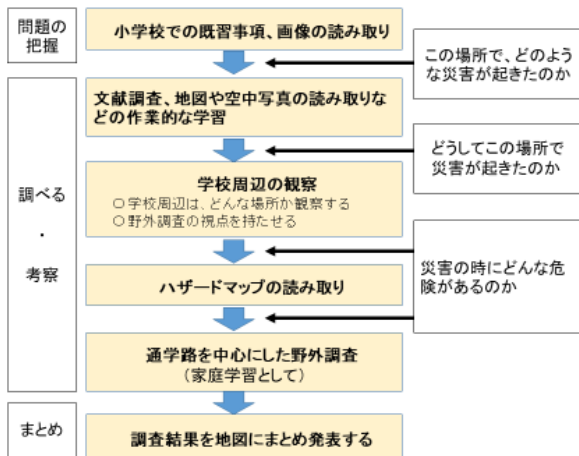


図3 観察や調査を位置付けた「地域調査の手法」の構想

表2は、「地域調査の手法」の単元の指導計画案である。本研究では、「地域調査の手法」を年間指

導計画の第二学年冒頭に位置付け、6時間を配当して構想した。第1時は、「学校周辺では、どのような災害が起きたのか」と問いを立て、小学校での既習事項を押さえさせるとともに、市史や河川事務所がwebページで公開している資料などを活用して文献調査を設定する。次に、「どうしてこの場所で、そのような災害が起きたのか」と問いを立て、第2時で地形図や空中写真から、調査対象地域の地形や土地利用の特色と変容を読み取り、第3時で実際に学校周辺を観察する活動を設定する。次に、「どこが危険な場所になっているのか」と問いを立て、第4時でハザードマップから読み取るとともに、生徒個々が通学路や自宅周辺を調査する計画を立てさせる。実際の野外調査は、家庭学習での課題とし、その結果を第5時で白地図にまとめる作業を位置付ける。第6時で調査結果を発表し、学習をまとめる。

表2 「地域調査の手法」の学習指導計画（試案）

時	問い	主な学習内容
1	○この場所（学校周辺地域）では、どのような自然災害が起きたのか	○地域の自然災害や防災について、小学校での学習を振り返る。 ○市史、河川事務所のwebページ、新聞記事などの資料から、地域で起きた自然災害を調べる。
2	○どうしてこの場所で、そのような自然災害が起きたのか	○地形図や空中写真を読み取り、地域の自然環境や土地利用とその変容などの特色を読み取る。
3		○学校周辺を観察する。 ・前時で読み取った地域の特色を観察して確かめる。 ・自然災害に対してどのような危険や備えがあるか観察する。
4	○どこが危険な場所になっているのか	○学校周辺を観察した結果を整理する。 ○ハザードマップからどのような危険があるか読み取る。 ○野外調査の計画を立てる。
	○どうして危険な場所になっているのか	○家庭学習として、野外調査を行う。
5		○各自の野外調査の結果を、班で1枚の地図にまとめる。 ○調査結果を基に考察したことをまとめる。 ○発表の準備をする。
6		○調査結果を発表する。 ○学習のまとめをする。

注：「地域調査の手法」を第2学年に位置付け、6時間を配当して作成した。

5. 観察や野外調査について

図4は、勤務校で実践した野外観察のルートマップである。ベースマップについては、国土交通省国土地理院がwebページ上で提供している「地理院地図」を利用した。観察では、前時で地形図や空中写真から読み取った地域の特色を実際に観察して確かめさせる。その際、自然環境と、土地利用とその変化など人々の営みの両面に関わる事象を取り上げるようコース設定を考えた。さらに、例えば、「こ

こで冠水したらどのような危険が予想されるか」と発問して、景観から自然災害に関わる地理的事象を捉えさせる。この点は、家庭学習の課題として設定した野外調査を行う際の、調査の視点をもたせることも併せてねらいとした。観察コースは、50分の授業時間内で観察しながら歩ける範囲で設定した。

次時で、通学路や自宅周辺の状況をハザードマップから読み取り、野外調査の計画を立てさせる。そして、家庭学習の課題として野外調査で実際に状況

を観察し、必要に応じて地域の方に聞き取り調査をする。調査結果は、白地図に書き込みまとめていく。その際、学区を幾つかの地域に分けて班編成し、班ごとに1枚の白地図に調査結果を整理することで、調査対象地域の特色を大まかではあるが面で捉えることができる。白地図にまとめる作業では、通学路を調査ルートとして示したり、調査結果を記号で表現したりするなどして、地図の作図技能の育成を図ることにも留意したい。



図4 観察コースの概要

注：ベースマップとして国土交通省国土地理院がweb上で提供している「地理院地図」を使用した。
(2019年11月1日閲覧)

6. おわりに

本研究では、新学習指導要領で新設された「地域調査の手法」の指導計画の試案を作成し、授業設計の構想を示した。設計の進め方として、働かせる社会事象の地理的見方・考え方を問いの形で示し、地理的技能と組み合わせて具体の学習活動を検討し、課題追究の学習過程を設計した。今後の本研究の課題として、授業実践を重ねる中で、本研究で示した授業展開が社会的事象の地理的見方・考え方や地理的技能の育成に対して効果的な指導となっているか検証していきたい。その際、小、中、高等学校を通じた資質・能力育成の視点からも検討を加えていく必要があると考える。

付記

本研究は、2019年11月3日に早稲田大学で開催された日本地理教育学会11月例会で発表した内容に加筆したものである。

【参考文献】

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター(2018)『平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査』https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shido_h25/index.htm (2019年12月25日閲覧)
- ・文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 日本文教出版, p.217
- ・文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 東洋館出版社, pp.29-82.
- ・文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』, 東洋館出版社, pp.35-75.